

「勘どころ」を押さえた文法記述に対する反応調査

—韓国語母語話者を対象とした「よくなる」を例に—

植松 容子

1. はじめに

日本語教育において「よくなる」は、初級の後半で動詞を使った変化表現の一つとして提出され、(1)のように説明されることが多い。また、(2)のように「よくなる」使用の注意点についてもふれられることがある。

- (1) 「よくなる」は「状態の変化」を表しますが、時間をかけて習慣や能力が身に付くという意味を表すことが多いです。(市川 2005b : 240)
- (2) 薬を飲んだので風邪が治りました 「治る」のようにもともと変化の意味のある動詞は「～よくなる」は用いないことを示すために載せた。「慣れる」「増える」「減る」なども同様である。(『新文化初級日本語Ⅱ教師用ハンドブック』第24課、p.64)

これらの説明や提示されている例文も分かりやすいものである。しかし、韓国語母語話者における「よくなる」の使用状況を観察すると、レベルが上がっても以下のような誤用が見られる。

- (3) 8か月立ち、結局店を閉めるようになりましたが、自分にとってはいい思い出もあり、(後略)(植松 2012a : 22)
- (4) (期末試験の日に高熱が出て欠席となってしまう、追試の可能性について尋ねるメールで) 昨日の期末試験を受験する予定でしたが、欠席をしてしまいましたので、連絡するようになりました。(植松 2012b : 30)

このように、レベルが上がっても誤用が生み出されるということは、現状の説明では韓国語母語話者が適切に運用するために必要な情報が十分に書かれていないと考え

られる。そこで、考慮する必要があると思われるのが、学習者の「勘どころ」(白川 2002)である。「勘どころ」とは、「「なるほど、この形式はこういう時に使うのか」と合点できるような、使用に結び付く生きた文法知識を提供すること(非用を生まない記述)であり、また、放っておけば生じかねない「勘違い」を予測して「言えそうだが言えない」表現を未然に回避すること(誤用を生まない記述)」のことをいう(白川 2002 : 73)。本稿では、韓国語母語話者の「よくなる」の使用状況分析をもとに仮説をたて、「勘どころ」を押さえた記述として具現化し、その記述内容を学習者がどのように受け取るのかについて調査を試みた結果を報告する。

2. 先行研究

2. 1 文法研究における「よくなる」の知見

植松(2016)によると、「よくなる」は日本語学において単独で取り上げられることは少なく、ナル表現の1つとして扱われたり(安達 1997)、動詞変化表現(「V よくなる/よくなる/よくなる/よくなる」)の1つとして記述される。例えば、安達(1997 : 81)では「よくなる」は「進展性を持たない事態に進展性を付与する構文」であり、「移行していく事態(状況)は、一般的に、主体の意志によってコントロールされない事態」であると説明されている。また、王(2012)のように、「よくなる」と「てくる」の違いを記述したものもある。あまり取り上げられない項目であることから、説明が困難な文法項目とは捉えられていないことがうかがえる。

では、日本語教育では「よくなる」はどのように扱われているのだろうか。植松(2012a)では、「よくなる」は初級の後半で提出される項目であり、教科書において提示されている「よくなる」の80%が「可能形+よくなる」であることを報告している。たとえば、『みんなの日本語初級Ⅱ改訂版』第36課では、「辞書形+よくなる」は「分かるようになりました」のみが出され、その他は「日本語で自分の意見が言えるようになりました」のように「可能形+よくなる」を中心に上げている(下線筆者)¹。また、『日本語初級2 大地 教師用ガイド「教え方」と「文型説明」』p.23には、留意点として「ここでは「日本へ来てから料理を作るようになりました」など、習慣の変化を表す「V dic. よくなりました」は教えないが、余裕のあるSには教えてもよい(下線筆者)」と書かれている。さらに、指導の際の留意点として、冒頭の(2)に示したような内容(変化の含意のある動詞は通常は「よくなる」を使用しないこと)を取り上げているものも見られる²。

¹ 『みんなの日本語初級Ⅱ 教え方の手引き』第36課(p.110)に、「この課では可能動詞、「わかります」「見えます」など、能力、可能を表す動詞を中心に扱う」と書かれている。

² 庵他(2000 : 78, 79)や『進学する人のための日本語初級 教師用指導書』p.109など。

2. 2 日本語教育文法研究の流れ

近年、日本語教育文法の研究が盛んになりつつあるが、どの研究も「日本語学をそのまま日本語教育に生かすことはできない」という問題意識を出発点としている点で共通している。太田（2014：34）は、これまでの教育文法の議論を俯瞰し、主張の違いは「教育のための文法」とは何かということについての様々な立場の違いであると言える述べている。さらに、問題意識は共有しているが、それが「シラバスの再構築」に向かうものと「従来の記述に十分にくみとられていない運用面での記述を充実させ、運用力につながる文法記述の方法を考える」方向に向かうものがあると指摘している（太田 2014：33-34）。

このうち、後者の「運用面での記述を充実させる方法」にもさまざまな立場があると考えられる。太田（2014：162）では「文脈化」、すなわち「当該表現の「意味」が、どんなときに、どのように、誰から、誰に対して用いられ、その結果、何を行うのか、を通して記述していくこと」が重要であると主張している。また、井上（2005：84）は「説明の仕方を学習者の母語の感覚に合わせること」の重要性を指摘し、「学習者の母語を考慮しない一律の文法は、学習者にとって不要なことが書かれ、肝心なことが書かれていない」と述べている。また、白川（2002：79）は「学習者の「勘どころ」を押さえる」ことの重要性を指摘しており、そのためには「誤用・非用からの発想」、「対照研究からの発想」、「教材分析からの発想」を駆使することが必要であると述べている。

2. 3 本研究の問題意識

先行研究をもとに、筆者が考える「学習者の運用につながる文法記述をするために必要な研究手順」を段階に分けて図式化すると、図1のようになる。

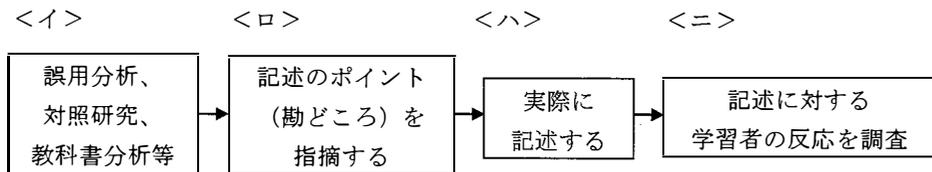


図1 運用につながる文法記述のために必要な研究手順

先行研究では、<イ>については誤用分析が持つ可能性について指摘したもの（白川 2002、市川 2005a、金澤 2006、白川 2007 等）、学習者の母語の情報を活用することの重要性を指摘したもの（井上 2005、張 2011 等）などがある。また、<ロ>まで述

べたものはいくつかあり、たとえば中国語を母語とする日本語学習者における結果のテイルの説明について論じた陳（2009）があげられる。一方で、<ハ>までを記述したものは少なく、管見の限りでは、太田（2014）が示したハズダの文法解説試案が最も充実した記述となっている。このように、<ロ>をもとに<ハ>「具体的に記述する」に踏み込んだものは少ないのであるが、学習者が（そして現場の教師が）必要としているのは、この<ハ>の具体的な記述である。さらに言えば、その記述が本当に学習者にとって有用なものなのか、分かりやすいものになっているかを検討する<ニ>の段階も必要なのではないだろうか。本研究では<ニ>を調査することの意義、その方法論を検討することを目的とする。

3. 韓国語母語話者の「よくなる」使用状況から分かること

3. 1 韓国語母語話者の使用状況

韓国語母語話者の書き言葉と話し言葉における「よくなる」の使用状況を探るために、書き言葉は金澤編（2014）「YNU 書き言葉コーパス」、話し言葉は国立国語研究所による「日本語学習者会話データベース」を使用した。

「YNU 書き言葉コーパス」とは、日本人（大学生）30名と、留学生（韓国語母語話者30名、中国語母語話者30名）計60名に12種類のタスクを課すことによって得た1080編の作文を、コーパスの形にまとめたものである。韓国語母語話者30名の日本語のレベルは、N1取得済みの者が30名中19名であり、その19名のSPOTの平均点は63.6点である（金澤編 2014：12 表7 参照）³。N1を取得していない残りの11名（N2取得済あるいは未受験）を含めた30名のSPOTの平均点は63.1点であるため、30名はほぼN1相当と見ることができよう。

「日本語学習者会話データベース」とは、日本語学習者と日本語母語話者である面接者による1データあたり約30分の会話を文字化したものである⁴。様々な条件（レベル、年齢、母語等）をもとにweb上で検索ができるようになっており、全てのデータにOPIの判定結果が付いている⁵。先に、「YNU 書き言葉コーパス」で分析対象とする者はほぼN1相当と見ることができると述べた。ここでは日本語能力試験とOPIとの相関については立ち入らないが、本研究ではレベルが上がってもなお残る誤用（や非用）を研究対象としていることから、「日本語学習者会話データベース」においてもOPIの判定が上位であるもの（上級下・上級中・上級上・超級）の韓国語母語話者と

³ SPOTとは、筑波大学留学生センターが開発した日本語の運用能力を測る言語テストである。詳細は<http://ttbj.jp.org/>を参照されたい。

⁴ 詳細は<https://nknet.ninjal.ac.jp/kaiwa/>を参照されたい。

⁵ OPIとはACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Language)が開発した口頭遂行能力を測るテストである。詳細は<http://www.actfl.org/>を参照されたい。

いう条件設定でデータを検索した。その結果、69名の OPI データを観察対象とすることになった。

これらのデータをもとに、韓国語母語話者の書き言葉と話し言葉における「ようになる」の使用数および正用数・誤用数をまとめたものが以下の表 1 である。書き言葉は 39 例、話し言葉は 29 例、合計 68 例「ようになる」を使用しており、そのうち 23 例が誤用である。さらに注目したいのが、書き言葉においても話し言葉においても、「辞書形+ようになる」にのみ誤用があらわれているという点である。

表 1 韓国語母語話者の「ようになる」使用状況⁶

	前接する形	正用	誤用	計
書き言葉	辞書形	13	14	39
	可能形	12	0	
話し言葉	辞書形	12	9	29
	可能形	8	0	
計		45	23	68

では、「辞書形+ようになる」の誤用 23 例にはどのような傾向があるのだろうか。「辞書形+ようになる」の誤用を観察すると、2つの傾向があることに気づく。1つは「動作動詞に「ようになる」を付加して1回の出来事を表した誤用」(= (5)、(6) : 以下「誤用パターン 1」と呼ぶ)、もう1つは「変化の含意がある動詞に「ようになる」を付加して自然な変化を表した誤用」(= (7)、(8) : 以下「誤用パターン 2」と呼ぶ)である。

- (5) I: (前略) そのあと、会社を辞めて、日本、語を勉強しながら、あの、におんについてあのこきしんが、できて、んー、におんに来る、ようになって、今日本で勉強しています。(日本語学習者会話データベース K0159)
- (6) レポートを書くのに必要なんですが、図書館にはなかったので困っていたところ周りの人から鈴木さんは持っているということを知られて、連絡するよくなりました。(YNU コーパス Task2、K012)

⁶ 植松 (2014 : 337) では韓国語母語話者の「ようになる」使用数が 42 例となっているが、本研究では「否定形+ようになる」(3 例)を観察対象から外したため、合計 39 例を対象とした。

- (7) (教員にメールで早期英語教育についての意見を表明するというタスクで) 人はだんだん年を取るようになって記憶が下がる一方で勉強したくても他の要因によってできない場合は、多いからです。(YNU 書き言葉コーパス Task10、K005)
- (8) キムチや肉などの色が変わるようになったら、昆布などのダシを入れ、(後略) (YNU 書き言葉コーパス Task9、K005)

それぞれの誤用の数は、誤用パターン 1 は 18 例、誤用パターン 2 は 5 例であった。したがって、「動作動詞に「ようになる」を付加して1回の出来事を表した誤用」パターンのほうが多いと言える。

3. 2 日本語の「ようになる」と韓国語の「-게 되다 (-ge doeda)」

日本語の「ようになる」は、韓国語では「-게 되다 (-ge doeda)」と表されることが多い⁷。たとえば、『J.Bridge for Beginners Vol.2』における「ようになる」文法解説の韓国語版には「-게 되다 (筆者注: -ge doeda)」(p.237)と書かれており、韓国・国立国語院 (2012)『標準韓国語文法辞典』p.25「-게 되다 (-ge doeda)」の日本語訳は、「~するようになる、~くなる、~になる」となっている。また、『みんなの日本語初級Ⅱ第2版 翻訳・文法解説 韓国語版』p.72にある「やっと自転車に乗れるようになりました」(下線筆者)の韓国語訳は「겨우 자전거를 탈 수 있게 되었습시다.」(下線筆者)となっており、「-ge doeda」が使われている。

一方で、「-ge doeda」は「ことになる」と翻訳されることや、「受身的に使われる」と説明されることもある。たとえば、白 (2004 : 261) では「別の人の行為や状態によって、自然に動作をするようになるか、ある状態に置かれる受身形である」と説明されており、例として「회사 일로 출장가게 되었다. 会社の仕事で出張に行くことになった」(下線筆者)があげられている。さらに、李 (2008 : 69) では「-게 되다 (-ge doeda)」を「状況の変化」と「受け身」に分け、後者については「主語の意志と関係なく、何かが起こることを表す時」に使用すると説明している。

3. 3 韓国語母語話者を対象とした「ようになる」の「勘どころ」とは

韓国語母語話者の使用状況を分析した結果、「辞書形+ようになる」の誤用が多く、【動作動詞に「ようになる」を付加して1回の出来事を表した誤用】と【変化の含意

⁷ 以下、特に必要となる場合 (例えば引用元がハングル表記になっている場合)を除き、ハングル表記は省略し、ローマ字表記 («-ge doeda»)のみを示すことにする。

がある動詞に「ようになる」を付加して自然な変化を表した誤用】が見られることが分かった。これらは、韓国語では「-ge doeda」を使って言うことができる。また、韓国語における「-ge doeda」は「ようになる」に相当するが、「-ge doeda」は「ことになる」や「受け身」としても使われることがあり、表すことができる範囲にずれがある。つまり、韓国語母語話者の「ようになる」の「勘どころ」とは、日本語の「ようになる」と韓国語の「-ge doeda」は似ているようで違うと示すこと、誤用パターン1と2を示し、この場合は日本語では「ようになる」が使えないことを明示することと言えるだろう。

4. 記述に対する反応調査について

4. 1 調査の概要—目的、調査対象者、調査方法

韓国語母語話者の「勘どころ」を押さえた「ようになる」の記述が、学習者にとって分かりやすいものとなっているかについて検証するために、記述に対して学習者がどのような印象を受けるのかを調査した。このような調査を行った先行研究は、管見の限りでは見当たらない。本研究ではこの調査のことを、以下「反応調査」と呼ぶことにする。

調査対象者は、N1 取得済みの韓国語を母語とする日本語学習者とした。誤用や非用を未然に防ぐための記述は、最終的には中級学習者自身が自力で参照できるものが望ましいと考えている。しかし、初級を終えたばかりの学習者は「ようになる」を学習してから時間がたっていないこともあり、自分の日本語の使い方を内省したり、自分がどのように「ようになる」を理解しているかについて説明してもらうことが難しい。そこで、本研究ではまず N1 取得済みの日本語学習者 3 名を対象とし、説明が分かりやすいものかどうか、必要な情報かどうか等について、インタビューを行うことにした⁸。

反応調査は 2016 年 12 月に行った。調査方法は、事前に作成した「動詞変化表現「ようになる」(韓国語母語話者向け)」(資料の詳細は 4.2 および巻末資料参照)を渡し、自宅で目を通した上で、コメントを入れてきてもらうように依頼した。コメントは、「分かりやすいと思う説明や例文」と「分かりにくいと思う説明や例文」にマークした上で、具体的にどのような点が分かりやすいのか(あるいは分かりにくいのか)について記入してもらった。所要時間は個人差があるが、30 分程度である。次に、その

⁸ 被調査者 3 名の属性は以下のとおりである。A は日本語学習歴 8 年、日本滞在歴 4 ヶ月、初級の時に使用した教科書は覚えていないとのことである。B は日本語学習歴 5 年、日本滞在歴 5 年、初級の時に使用した教科書は『みんなの日本語初級 II』である。C は日本語学習歴 5 年、日本滞在歴 2 年 8 か月、初級の時に使用した教科書は覚えていないとのことである。

資料をもとにインタビューを行った。インタビュー方法の詳細については、4.3 を参照されたい。

4. 2 調査に使用する資料の作成

今回の調査は、韓国語母語話者の「勘どころ」を押さえた記述を具現化し、その記述に対する率直な反応を見ようというものである。そのために、第 3 節で整理した韓国語母語話者の使用状況からわかることをもとに仮説をたて、その情報を記述に盛り込むことにした。仮説は、以下の 3 点である。

- (9) 韓国語母語話者の「勘どころ」を押さえた「ようになる」記述のポイント(仮説)
- ① 韓国語の「-ge doeda」は日本語の「ようになる」と似ているように見えるが、違う部分もあることを示すのが有効ではないか。
 - ② 誤用パターン 1「動作動詞に「ようになる」を付加して 1 回の出来事を表した誤用」の例をあげ、日本語では「ようになる」で言えないことを示すのが有効ではないか。
 - ③ 誤用パターン 2「もともと変化の含意がある動詞に「ようになる」を付加して自然な変化を表した誤用」の例をあげ、日本語では「ようになる」で言えない(「～てくる」で言う)ことを示すのが有効ではないか。

これらを記述の形として具現化したのが、巻末の[資料 1]である。参考のために、現在多くの教科書や参考書で使われている「ようになる」の説明も載せた。また、学習者の日本語学習情報(学習歴、使用した教科書等)についても記載してもらった。

4. 3 インタビューの方法

インタビューは(9)に示した仮説にもとづき、3つの質問(①「ようになる」と「-ge doeda」が異なることを示すのは有効か、②誤用パターン 1の説明は分かりやすいか、必要な情報か、③誤用パターン 2の説明は分かりやすいか、必要な情報か)を行った。インタビュー時間は約 20 分であり、正確な記録のために、IC レコーダーで録音を行った。ただし、本稿で以下に示す被調査者の発話内容は、データをありのままに引用するのではなく、筆者が要約する形を取った。

5. 調査結果

5. 1 質問 1 「「ようになる」と「-ge doeda」が異なることを示すのは有効か」

「ようになる」と「-ge doeda」が異なることを示すことについては、A と B は

誤用を防ぐために必要な情報だと思う、Cはあってもいい、という回答であった。AとBはこれ以上のコメントはなかったが、Cは「あまり詳しく説明されすぎると、かえって難しくなる」、「日本語に慣れた状態でこの説明を見ると、韓国語との比較がかえって難しく感じる」と述べていた。

5. 2 質問2「誤用パターン1を示すことは有効か」

誤用パターン1については、AとBは誤用を防ぐために必要な情報であるという回答であった。Aは、「-ge doeda」を「何かの影響を受けて、もしくは理由があった、このようになった」時に使うと理解している。さらに、「-ge doeda」が日本語の「ようになる」と「ことになる」を両方表せることも認識しており、「「ようになる」と「ことになる」を一緒に学びたい」という意見が聞かれた。実際に、韓国で初級を学習した時にも、「ようになる／ことになる」を選択させるような練習があったそうである。また、Bは「-ge doeda」について「何らかの原因により、偶然、外部からの影響により、何かに気づき（いやいやながら、あるいは自分から）その行為をした」という場合に使うと説明する。Bは日本滞在歴も5年になって、日本語で困ることはほとんどなくなっているにもかかわらず、いまだに「メールを送るようになった」、「日本へ来るようになった」は誤用しがちであるとのことである。その背景にある意識として、韓国語の感覚では「送りました」よりも「送るようになりました」のほうが丁寧な感じがするそうである。「送りました」や「来ました」というのは単なる事実を淡々と述べている、報告的な感じを受けるのに対し、「送るようになりました」や「来るようになりました」はそれをするまでの経緯についても述べているため、丁寧な印象を受けるとのことである。

一方、Cは、必要かどうか分からないという回答であった。誤用パターン1の「メールを送るようになった」や「日本へ来るようになった」を韓国語で「-ge doeda」を使うかどうかは、個人によって直感が異なるのではないかとのことである。この場合、「-ge doeda」を使って言わないわけではないが、Cの感覚では、韓国語においても「-ge doeda」を使わずに「送りました」や「来ました」に相当する表現を選ぶようである。

5. 3 質問3「誤用パターン2を示すことは有効か」

誤用パターン2を示すことについては、3名ともに必要ないと思うとの回答であった。Aは、確かに韓国語で「年を取るようになって」や「色が変わるようになって」を「-ge doeda」を使って言えないわけではないが、特殊な文脈が必要であり、通常は「年を取ったら」、「色が変わったら」で良いとのことである。初級学習者だったら迷うことはあるかもしれないが、習得が進むにつれて、「「ようになる」を使うとなんだかおかしい」という感覚が得られるようになると思うとのことであった。BはAが指

摘した「特殊な文脈」について具体例をあげ、「年を取るようになって」に「-ge doeda」を使用すると、公的な場で専門家が講演しているような印象になり、「変わるようになったら」に「-ge doeda」を使用すると料理番組で先生が説明しているような印象になると述べていた。Cは誤用パターン2に示した例のうち、「年を取るようになって」は韓国語の感覚でもおかしいと感じるため、削除したほうが良いと述べていた。一方、「色が変わるようになったら」は「-ge doeda」を使って言わないわけではないため、例文として残しておいてもいいとのことである。ただし、実際には「色が赤くなったら」のように具体的な色を入れて形容詞を使った変化表現にしたほうが自然であると述べていた。

5. 4 その他のコメント

その他、インタビューで話題になったこととして、AとCから「～てくる」について言及があった。Aは、日本語の「～てくる」に相当する表現は韓国語にはないため、これも難しいというコメントである。たとえば、「花が枯れてきた」と言いたい場合、韓国語では「花が枯れ始めた」や「花が枯れるかもしれない」という言い方をしようである。また、Cは誤用パターン2の下部に囲みで示した「～てくる」と「～ようになる」との比較の部分は、分かりやすくていい、必要な情報であると述べていた。ただし、説明の中にある「複数回（の出来事）」という表現は分かりにくいいため、変えたほうが良いとのことである。

6. 考察

6. 1 記述に対する反応調査を実施することは必要か

これまでの研究では第2節の図1のうち、<ハ>の「記述を具現化する」という段階までしか行われていなかったのであるが、本稿では<ニ>の「その具現化した記述に対し、学習者はどのような印象を持つのか」という反応調査を試みたことが新しい。今回は3名という限られた人数を対象とした調査であったが、5.3の「誤用パターン2を示すことは有効か」に対して全員が「不要」と回答していたことから、反応調査を実施したことは意義があると考えられる。研究者がデータの観察を通して誤用パターンを見出し、韓国語との対照を行った上で、「この情報は誤用（や非用）を防ぐために必要だ」と判断したとしても、学習者にとっては実は不要な情報であり、かえって混乱を招くという場合もある。さらに、Cが「あまり詳しく説明されすぎると、かえって難しくなる」と述べていたことから分かるように、学習者は簡潔な説明を求めている。学習者の運用に結び付く情報を厳選するためにも、反応調査を行うことは有効であると考えられる。

6. 2 記述に対する反応調査の方法

今回の反応調査では、データを観察した結果をもとに「このような情報が必要なのではないか」という仮説をたて、それに沿って学習者向けの資料を作成し、事前に目を通してきてもらった上でインタビューを行うという方法を取った。まず、事前に資料を渡して自宅でコメントを入れてきてもらうという方法は妥当であると考えられる。学習者自身が普段どのようにその文法項目を使っているか、その文法項目をどのように捉えているかについて内省するには、まとまった時間が必要である。さらに、資料をもとにインタビューを行うことも有効である。被調査者は事前に資料にメモをしてきているが、そのコメントが意図するものを書かれた文字のみから読み取るのは難しい。資料をもとにインタビューを行うことにより、学習者にとって必要な情報がより鮮明に見えてくるのである。このように、「資料に事前に目を通してコメントを入れてもらう」、「資料をもとにインタビューを行う」という基本的な流れは妥当であると考えられる。

一方で、調査対象者の人数は、たとえパイロット調査であったとしても、最低5名は必要であると感じる。被調査者が3名であると、回答が2人と1人に分かれた場合（例えば5.2に示した「誤用パターン1を示すことは有効か？」に対する回答）、その1名だけが他とは異なる直感を持っているのか、それとも同様に感じる人は他にもおり個人差が大きい部分なのか、明らかではない。したがって、今回提示した資料の改訂版を作成するには、あと数名同様の調査を実施し、その結果を見てからになるだろう。

7. おわりに

本稿では、日本語学習者の「勘どころ」を押さえた記述をするための試論として、韓国語母語話者を対象とした「ようになる」反応調査（パイロット調査）の結果をもとに、反応調査の有効性とその方法論について考察した。本研究は、研究成果を具体的な記述として具現化したことに加え、その記述を学習者がどう受け取るかという反応調査を実施した点が新しい。研究者が学習者の使用状況を分析し、そこから分かることを全て情報として盛り込むことは、必ずしも学習者が求めている情報と一致するとは限らない。学習者は、運用に役立つ分かりやすい説明を求めているが、同時に簡潔な説明を求めている。今後は、反応調査を重ねて韓国語母語話者を対象とした「ようになる」の「勘どころ」を押さえた記述を充実させ、最終的には中級学習者が自力で読めるような文法記述を提供することを目指したい。

〈参考文献〉

- 安達太郎 (1997) 「「なる」による変化構文の意味と用法」『広島女子大学国際文化学部紀要』第4号、pp.71-84
- 庵功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 市川保子 (2005a) 「誤用研究と日本語教育」松岡弘・五味政信編著『開かれた日本語教育の扉』、スリーエーネットワーク、pp.109-121
- 市川保子 (2005b) 『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク
- 井上優 (2005) 「学習者の母語を考慮した日本語教育文法」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版、pp.83-102
- 李倫珍著、安根姫訳 (2008) 『初～中級の必須の70項目がスッキリわかる韓国語表現文型』アルク
- 植松容子 (2012a) 「日本語教育における「ようになる」の扱い—韓国語母語話者を対象とした文法記述のために—」『学苑』864号、pp.30-37
- 植松容子 (2012b) 「「ようになる」の文法記述—韓国語母語話者を対象とした場合」『日本語／日本語教育研究会第4回大会発表予稿集』、pp.44-51
- 植松容子 (2014) 「韓国語母語話者における動詞変化構文の使用状況—母語の感覚に合う記述のために—」金澤裕之編『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房、pp.329-251
- 植松容子 (2016) 「中国語母語話者は「ようになる」と何を類義表現として捉えるか—対照研究と誤用観察から分かること」『学苑』第910号、pp.27-36
- 太田陽子 (2014) 『文脈をえがく 運用力につながる文法記述の理念と方法』ココ出版
- 王崗 (2012) 「「～ようになる」と「～てくる」についての分析」『日本語日本文学』22号、pp.43-50
- 金澤裕之 (2006) 「誤用分析研究の可能性」『横浜国立大学国語研究』24、pp.1-18
- 金澤裕之編 (2014) 『日本語教育のためのタスク別書き言葉コーパス』ひつじ書房
- 韓国・国立国語院 (2012) 『標準韓国語文法辞典』アルク
- 白川博之 (2002) 「記述的研究と日本語教育—「語学的研究」の必要性と可能性」『日本語文法』2巻2号、pp.62-80
- 白川博之 (2007) 「学習者の誤用・非用をどう考えるか」『広島大学教育学研究科紀要』第二部、第56号、pp.173-179
- 張麟声 (2011) 『新版 中国語話者のための日本語教育研究入門』日中言語文化出版社
- 陳昭心 (2009) 「「ある／いる」の「類義表現」としての「結果の状態のテイル」—日本語母語話者と中国語を母語とする学習者の使用傾向を見て—」『世界の日本語教育』19号、pp.1-15
- 白峰子著、大井秀明訳、野間秀樹監修 (2004) 『韓国語文法辞典』三修社

〈日本語教科書・教材〉

『進学する人のための日本語初級 教師用指導書』(1997) 国際学友会

『日本語初級 2 大地 メインテキスト』(2009) スリーエーネットワーク

『日本語初級 2 大地 教師用ガイド 「教え方」と「文型説明」』(2011) スリーエーネットワーク

『新文化初級日本語Ⅱ 教師用指導手引書』(2000) 凡人社

『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版』(2013) スリーエーネットワーク

『みんなの日本語初級Ⅱ 教え方の手引き』(2001) スリーエーネットワーク

『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 翻訳・文法解説 韓国語版』(2015) スリーエーネットワーク

『J.Bridge for Beginners Vol.2』(2008) 凡人社

〈付記〉本研究は JSPS25770192 の成果の一部である。

〈資料1〉「ようになる」記述に対する反応調査のために作成した資料

名前:

動詞変化表現「ようになる」(韓国語母語話者向け)

◇ 「ようになる」の一般的な文法説明と例文

「ようになる」は、「状態の変化」を表しますが、時間をかけて習慣や能力が身に付くという意味を表すことが多いです(参考:市川保子(2005)『初級日本語文法と教え方のポイント』スリーエーネットワーク、pp.238-243)。

例1) 以前は日本語があまり話せませんでしたが、最近は少し話せるようになりました。

例2) 生産技術が進んで、一年中、夏の野菜が食べられるようになりました。

例3) 以前は野球をあまり見ませんでしたが、友達の影響で、見るようになりました。

例4) 以前は男性はあまり料理をしませんでしたが、最近はずるようになりました。

(例文はいずれも『新文化初級日本語Ⅱ』第24課(p.58)をもとに一部改変)

◇ 韓国語母語話者を対象とした「ようになる」の説明

日本語の「動詞+ようになる」は、韓国語では「-게 되다 (ge doeda)」と翻訳されることが多いです。ただし、似ているようで違うため、注意が必要になります。

特に、「辞書形+ようになる」の使い方に注意が必要です。

▶ 韓国語では、「自分でそのようにしようと思ったのではなく、それをしなければならぬ状況になった(=それをするしかなかった)」という場合にも「-게 되다 (ge doeda)」を使いますが、その場合日本語は「ようになる」を使いません。

(1) 田中先生 初めまして、イムと申します。このたびは鈴木先生からご紹介がありまして、メールを{×送るようになりました/○送りました(お送りしました)}。

(2) 会社を辞めて日本語を勉強しているうちに、日本についてもっとよく知りたいという気持ちが強くなって、日本へ{×来るようになりました/○来ました(参りました)}。

<ここがポイント!>

・日本語の「辞書形(意志動詞)+ようになる」は、「何度も同じことをして、そのパターンが定着した」ことを言う時に使います。1人の人が同じことを複数回するのでも良いし、複数の人が同じことをする場合も良いです。

(1) 今までは LINE で連絡していましたが、最近ではメールを送るようになりました。

(=私は最近、よくメールで連絡する。連絡の方法が変わった。)

(2) 1980年ごろから日本語を外国語として学ぶ人が多くなり、韓国の若者が日本へ来るようになりました。

(=日本へ来る人が多くなった。)

- ▶ 韓国語では、主語が非情物（人間以外）で「自然にそのようになった」という場合に「-게 되다 (gedoeda)」を使いますが、その場合日本語は「ようになる」を使いません。

- (3) 人間はどどん年を {×取るようになって／○取って (取るにつれて)}、記憶力が下がっていきます。
- (4) キムチや肉などの色が {×変わるようになったら／○変わったら}、昆布などのダシを入れて、

<ここがポイント！>

・日本語の「辞書形（無意識動詞）+ようになる」は、その動詞が「自然にそうなる」という性質を持っている場合、「ようになる」を使って言うことができません。この場合は、複数回発生しても、複数のものが同じことを発生させても「ようになる」は使わずに、「～てくる」を使います。

- (3) '不思議なことに、先週から、花が {×枯れるようになった}。

⇒○枯れてきた

- (4) 'キムチや肉、ネギなど、全ての具材の色が {×変わるようになったら}、…

⇒○変わってきたら

調査協力者の情報、記述に対するコメント

- 日本語能力試験 N () 取得
- 初級の時に使用した教科書：() ・覚えていない
- 日本語学習歴：約 () 年 () 例) 2年、1.5年
- 日本滞在歴：約 () 年 () 月

<この文法説明について、感想を書いてください>

ありがとうございました！